

浅草の時空を旅する

—江戸図屏風と錦絵を活用して—

東京都立浅草高等学校 海上 尚美

1. 実施学年及び教科・領域

- (1) 実施学年 高等学校第1学年次～第2学年次
- (2) 教科・領域 地理歴史科冬期講習（任意参加）

2. 学習のねらいと博物館活用との関連について

- (1) 主題名 第2回台東ハートラボプロジェクト「浅草を歩こう♪」
- (2) ねらい

- ① 歴史資料の鑑賞とフィールドワークを通じて、学校のある地域についての歴史を知る。
- ② グループワークや言語活動を通じ、自分の考えたことを説明する力、他者の意見を傾聴する力を養う。

【台東ハートラボプロジェクトとは】台東区内の高校（岩倉高校・蔵前工業高校・浅草高校）で連携して、区内の史跡や文化施設や工房などを見学し、協同学習をする講座。学校のある地域を知り、楽しむことで理解を深めるほか、さまざまな人と会うことで社会性を高めることなどを目的としている。

(3) 博物館との関連

- ① 歴博貸し出し教材の「江戸図屏風」ジグソーパズルと床置きパネルを用いて、描かれているものを細かく観察する。
- ② フィールドワークの際に歴博所蔵資料の画像を参照することで、昔の様子を想像する力と現在の様子と比較する力を身につける。

3. 指導計画

過程	時間	○学習活動 ● 学習内容	□指導上の留意点 ■ 評価の観点
展開①		mission I 仲間に出会う	
	20分	<ul style="list-style-type: none">○各生徒にパズルを1枚選ばせる。【アイスブレイク・パズルワーク】●パズルの場面に描かれているものを理解する。○それぞれが持っているパズルのピースでつながる場面を持っている人を探し、グループをつくる。○A4用紙をみんなに見せながら、グループで自己紹介。●パズルに描かれている場面を理解する。	<ul style="list-style-type: none">□パズルは4～5枚ずつでひとつの場面ができるよう分けておく。□各教員もひとつピースを持ち、サブファシリテーターとしてグループに入る。グルーピングがスムーズに行くよう声かけをする。□自己紹介がスムーズに行くよう注意を払う。■パズルをよく観察し、描かれていることを読み取っている。＜技＞

		○パズルをつなげた画面に描かれていることを読み取って、話し合う。	■読み取った内容をグループのメンバーと共有できている。＜関＞ □個人の意見を引き出し、全体で共有できるようサポートする。
展開②	missionⅡ 屏風に出会う		
	30分	○パズルの場面を屏風の中に位置づけ、屏風に何が描かれているのかを理解する。 ●床置きパネルを広げ、自分たちのパズルの場面をパネルの画面から探す。 ●屏風全体に描かれているものから、この資料がどんな資料かを考える。 ○「江戸図屏風」の概略について理解する。 ●もう一度屏風を観る。	■パズルの場面を屏風パネルから見つけることができる。＜関＞ ■屏風パネルから手がかりを探し、どのような資料か自分の意見を組み立てることができる。 ＜思・技＞ □生徒との会話を通じて、手がかりを与える。 ■「江戸図屏風」がどのような資料か理解できる。＜知＞ □上野・浅草に注目させ、どのようなものが描かれているかを観る。
展開③	☆missionⅢ 浅草に出会う		
	90分	○浅草の歴史を理解する。 ●浅草高校→待乳山聖天→猿若町→浅草寺→浅草六区→浅草高校のルートでフィールドワークを行う。	□全体を二手に分ける。うちひとつはルートを逆周りで歩く。 ■歩きながらの発見や教員の解説、画像資料から、浅草がどのような場所かを理解する。＜知＞ □画像資料を見せる際に見所を簡単に説明する。 ■見学したポイントを配布した地図にマーキングする。＜技＞ □生徒と会話をしながら、さまざまな感想を引き出す。
展開④	☆missionⅣ 旅の終わりに		
	30分	○学んだことをまとめて、説明する。 ●グループでワークを振り返り、A4用紙に「浅草って○○なところ」とワンフレーズでまとめる。 ●まとめた紙をみんなに見せつつ、どうしてそうなったのかを説明する。 ●個人の感想をワークシートにまとめる。	■グループでの感想を共有し、ひとつのフレーズにまとめることができる。＜思＞ □個人の意見を引き出し、全体で共有できるようサポートする。 ■グループの意見を根拠に基づいて説明できる。＜思＞ □補足説明を求めるなど、全員が理解できるようにサポートする。 ■今日学んだことを自分の言葉でまとめられている。＜技＞ □最後に「江戸図屏風」とはどのようなものか、今日の見学ポイントを解説した補足資料を配布する。

4. 実践の概要

参加人数 生徒：浅草高校 4 名・岩倉高校 7 名（計 11 人）

教員：浅草高校 4 名・岩倉高校 2 名（計 6 人）

（1）展開① mission I 仲間と出会う

任意参加の講習で学年や所属部も混ざっているほか、他校との合同実施のため、教員も含めたお互いの顔合わせを行った。緊張をほぐすためのアイスブレイクとグルーピングの中で、「江戸図屏風」ジグソーパズルを使用した。

講習会場にやってきた生徒に 1 枚ずつパズルを配布し、つながる場面を持っているほかの人を探すことでグループづくりを行った。生徒同士が声をかけあえれば理想的であるが、なかなか難しいため、サブファシリテーターの教員もパズルを持ち、絵柄のつながる生徒に声をかけてグルーピングの手助けをした。

選択肢を増やすためパズルのピースを多めにしていたことからグループの人数が不均衡になったので、5 グループできたものを生かしつつより大きな 2 グループに分け、その中でメンバーの自己紹介を行った。

全員に A4 用紙を 1 枚配布し、四つ折にして指定の項目を記入したものを使って自己紹介をした。

続いて、つなげたパズルの画面に何が描かれているかについて、グループ内で話しあい、ワークシートに書き出した。小さな画面なので頭を寄せ合ってみんなで覗き込むことで距離が縮まる。

（2）展開② mission II 屏風に出会う

それぞれのグループでパズルをじっくり観てから、いよいよ「江戸図屏風」全体を観る。まず、床置きパネルの左隻を広げ、自分たちのパズルの場面を探した。おおむねすぐに探し出すことができ、自然にその場所にパズルをおいてみるなどの行動が見られた。そのあとはこちらが指示するよりも先に、興味をひかれて屏風のあちこちを観て回っていた。続いて右隻も広げ、しばらくの間自由に眺める時間をとった。ファシリテーターの教員たちも生徒と会話しながらポイントを示したり、発言を引き出したりした。貼札の文字には生徒にも読めるものもあり、知っている場所に気がつくところからまた新しい会話も生まれた。



輪になって自己紹介

(呼ばれたい)	住んでいるところ
名前	
この冬の 楽しい予定	来年の抱負

自己紹介シート



パズルをつなげて仲間を探す

おおよそ画面に描かれているものを把握したところで、「江戸図屏風」がどのような資料であるかについて簡単な解説をする。ここではごく基本的な以下の点に絞った。

【江戸図屏風とは】

- ・ 江戸初期（寛永期）の江戸を描いている
- ・ 徳川家光の事跡を顕彰している
- ・ 上野や浅草など私たちにかかわりの深い場所も描かれている

これらのことに触れた上で、家光の姿をみんなで探してみたり、上野・浅草を入念に見て何が描かれているかをワークシートにまとめて、実際の浅草を歩いた。

（3）展開③ missionⅢ 浅草に出会う

フィールドワークに出発する。二つに分かれたグループは、それぞれ以下のポイントを巡っていった。

浅草高校→待乳山聖天→猿若町→浅草寺→浅草六区→浅草高校

解説は岩倉高校の教員が主として行い、各見学ポイントでは歴博所蔵資料画像の錦絵などを参照しながら、当時の様子に思いをはせたり、現在の様子と比較させたりなどに活用した。

①待乳山聖天

待乳山聖天は寺号を本龍院といい、浅草寺の支院のひとつである。縁起によると推古天皇9年（601）年の夏、早魃で苦しんでいた人々を、十一面観音が大聖尊歡喜天に化身して現れて救ったことからこの地に祀られたそうである。境内の各所に健康と一家和合を示す大根・商売繁盛を示す巾着の意匠がある。生徒たちは建物や灯籠などに意匠を見つけて喜んだり、隅田川のほうを眺めて“山”と呼ばれた地形に納得したりしていた。

【使用館蔵資料：「〈東京真画名所図解〉待乳山夕景」】

②猿若町

かつて堺町・葺屋町にあった江戸の芝居小屋が天保12（1842）年に浅草の丹波園部藩の下屋敷跡へ移転してきたことで繁栄した町である。中村座・市村座・河原崎座（のちに森田座）があり、猿若三座と呼ばれた。現在はマンションや製靴関係の会社が建ち並び、昔の面影はまったくと言っていいほどない。「何か地味だねえ」という生徒の言葉に、みんな深くうなずいていた。【使用館蔵資料：「江戸名所 猿若町三座」】



江戸図屏風を観る



ミニレクチャー

③ 浅草寺

推古天皇 36(628)年、漁をしていた兄弟が網にかかった観音像を祀ったことを縁起とする、東京で最も古い寺のひとつである。境内にはさまざまな見所があるが、宝蔵門や五重塔、本堂のほか、東京に残るわずかな江戸期の建築である二天門などを見学した。とりわけ五重塔は資料画像との比較が効果的で、「浅草寺境内之図」と比べてみると、昔と今とでは位置が変わっていることがよくわかり、「じゃあこの五重塔はいつできたの？」との質問も出て、実際にその場を歩いてみることの意義を感じられた。



旧五重塔跡地で

【使用館蔵資料：「東京名所の内 浅草区金龍山浅草寺境内一覧」】

④ 浅草六区

明治6(1873)年、太政官布告により浅草寺境内が「浅草公園」と命名され、のちに一区から七区までに区画された。そのうちの六区が興行街として、近代の盛り場となっていく。活動写真が建ち並ぶほか、明治20(1890)年には凌雲閣も建設されて東京名所となった。

現在の六区には映画館はなくなってしまい、画像資料に見られるような賑わいはない。しかし、再開発が進む中でドン・キホーテが新たに開店したり、今後映画館が開館する計画も進行中である。

かつての凌雲閣の跡地には解説板などは残されていたものの、パチンコ店になっており、この地にあった瓢箪池や凌雲閣の面影はまったくなく、生徒たちはとてもがっかりしていた。

花やしきは、生徒にとっては遊園地という印象が強い場所であったが、できた当初は園芸の成果を展示する植物園で字義通りの花やしきであったことや、かつては動物園や水族館があったことを知ると、また見方も変わったようであった。



凌雲閣跡地で

【使用館蔵資料：「〈凌雲閣〉」「東京名所 浅草公園富士山之図」「(東京名所)東京の大遊楽地 浅草公園第六区の賑ひ」「浅草公園唯一の歓楽境 花やしき」】

(4) 展開④ missionIV 旅の終わりに

学校に戻ってからは、フィールドワークの内容を振り返るグループワークを行った。浅草の今と昔について資料から読み取ったり、実際に歩いてみて感じたりしたことについて話し合い、「浅草って〇〇なところ」というワンフレーズにまとめて、発表した。



発表の様子

①受け継がれ続けているところ ②味わい深いところ ③歴史があふれるところ

どうしてこのフレーズになったのか、メンバーの感想も含めて説明し、浅草についてよく知っている者もそうでない者も、新しい発見をしてワークを終えた。

5. 成果と課題

終了後に担当教員全員で振り返りを行い、以下のような意見が出された。

(1) 参加教員の意見

①「江戸図屏風」のワークについて

- + みんなが話をしながら屏風を観ている様子が楽しそうであった。
- + 「江戸図屏風」全体というマクロの視点から、上野と浅草というミクロの視点に収束していく方法はよかった。
- 屏風とはどのようなものか（形状・用途など）について、補足資料などで基礎知識を与えてもよかった。
- 家光を探し方や地名などについてももう少しヒントを与えたほうがよかった。

②フィールドワークについて

- + 解説ポイントで画像資料を用いたのは、昔と今の比較に役立った。画像には言葉以外の情報や説得力があった。
- + フィールドワークは自分で発見できる楽しみがあって面白い。
- + 自分の足で歩くことによって、空間や時代の空気を味わうことができる。
- 見学した場所について、生徒の手元に残る資料を用意してもよかった。
- 配布した地図を活用して、今と昔を比較させてもよかった。
- 生徒はどうしても自分の生活目線でしか見ない傾向があるので、教員の側から視点を提供する必要があるのではないか。

(2) 成果と課題

昨年度、教科の授業内で「江戸図屏風」を鑑賞した際に、床置きパネルを観る前にパズルをじっくり観ることで観るポイントを絞り込める効果があったので、今回もまずパズルを観ることからワークに入っていくことにした。一度に観る画面の大きさもパズルの小さい画面から屏風の大きな画面に広げることで、生徒の集中力を保つことができた。

また、画像資料を活用することにより、現在との比較がしやすくなり、授業の目標達成に役立った。ワークシートのほかに補助資料を用意するなど、学んだことが生徒の中に定着させるための工夫ができればよかったと思う。

【使用ワークシートと参加生徒の感想】

学年・クラス／

氏名／

◆・◇・◆ 台東ハートラボプロジェクト 「浅草を歩こう♪」 ◆・◇・◆

☆mission I 仲間に出会う

グループのメンバーは誰ですか？

(各自で記入)

☆mission II 屏風に出会う

①パズルのピースには何が描かれていますか？できるだけたくさんあげてみよう。

画面に描かれているもの	それを見て感じたこと・考えたこと
金の雲・寺（増上寺）／人・馬・城・鉄砲・弓・橋・雲・川／城下町／人が密集して栄えている／川があり船が浮かんでいる／刀などの武器を持っている人がある／人・馬・木／いろいろな身分の人の生活／町のつくり／平屋が多い	人がたくさんいて栄えていた／にぎやかで楽しそう／船があつて物などの流通が便利である／平和そうなので数年は争いごとがおきてないと思う／ひとが氾濫してる／楽しそう／差が激しい／The 江戸

②作品全体を見て、気がついたこと・感じたこと・考えたことをあげてみよう。

浅草や上野など身近な場所が多くのっていた／店がたくさんあつた／雲が多かつた／とても広い／金色の雲でショートカットされている／昔に描く東京の絵でも地形はあまり変わらない／栄えている／川などには舟で運んでいる人もいた／犬を追いかけている人がある／家光が多い

③上野・浅草には何が描かれていますか？

しのばずの池・東照宮のチェーン店・浅草寺・仲見世通り／人が多い／店が多い／寺・神社など／池があつた／人・お寺・木・金の雲／隅田川

④これはどんな作品ですか？

作品名は… ※この部分は担当が解説



☆mission III 浅草に出会う

①フィールドワークでの発見を書き出してみよう。

待乳山聖天 大根が可愛く見える不思議／大根がモチーフになつてた／大根が太かつた／お寺なのにお墓がなくびっくりした／昔は丘だった 高さ 15m／名前に山がついておるとおり、この場所は山になつてた／階段が苦しかった／大根や巾着がその寺のシンボルな理由がわかつた

猿若町 昔のにぎわいが想像できない／中村座とかいろいろあつて勉強になつた／普通の民家みたいところに石碑があつた／昔歌舞伎が中村、市川、森田とあつたそうだが、今は地味なものがたつた／昔は歌舞伎に関係してた

浅草寺 大きい！おみくじが大吉だつた！／（仁王像が）あ・うんと言つてそうだつた／お寺と神社はお祈りのしかたが違つた／五重塔は今と昔で位置が違つた／イチョウの木（神木）がとても印象的だつた

浅草六区 昔と比べると平日は人が少なかった／昔は人でにぎやかだった／凌雲閣は 52m だということがわかった／（凌雲閣の跡が）パチンコ屋になっていた／前はタワーが立ってたって聞いて、全然違った／凌雲格が 52m と昔では高いものだった。昔人が多かったことから、道が異常に広がった／新しいドン・キホーテがあった。昔はとても栄えていたのに今はあまり栄えていない／三大タワー

②歩いてみて、浅草ってどんなところだと思いましたか？

人が多い／芸事の店が多い／古い／いつも通ってた道などが実は深くて、もっと興味が出た／歴史のある町／歌舞伎が有名な町／たのしいところ／いろんな歴史が大事におさめられたところだなと思いました／昔のほうがかつらににぎわっていたとても歴史のある建物が多かった花やしきが創業 160 年がすごいと思った／人がいない。人が多いところとあまりいないところの差が激しい／昔と今が混ざっていた／幅広い文化だなと思った（多様な文化の眠る町）／古い建物もあったけれど、新しい建物も多いと感じた

③グループで、感想や印象を出しあって、「浅草って〇〇なところ」とワンフレーズで表現してみよう。

浅草って…①受け継がれ続けているところ ②味わい深いところ

③歴史があふれるところ

そのココロは？

①いろいろなものが形として残されている／祭りや伝統的な品が今でも作られて、浅草の人たちの次の世代に受け継ごうという意志が今日歩いてみて感じられたので。自分も地元なので伝統を受け継いでいければいいと思います

②味わい深い町です／歴史があつて勉強になる／昔から受け継がれていることがたくさんある／神社や寺、凌雲閣や花やしきなど多くの文化を築き上げていた／古い建物が多く歴史を感じることができる

③凌雲閣は残ってないのですが、浅草寺や待乳山聖天などが大事に残されているからです／いろんな 100 年も前からあるものが建ち並びとても歴史あふれるところだと思った／

浅草寺など昔の伝統がいまもまだたくさん残っているから／地元なのに知らないことばかりだったので、今日知ることができてよかったです／自分が行ったことのない場所や、その場所の歴史について学ぶことができました



今日のワーク全体を通じて感じたこと・考えたこと

今と昔とではとても変わっている／時の流れは切ない／浅草に住んでいてわからないことがいっぱいあった／いろいろわかって楽しかった／ちゃんと浅草を回ってすごいと思った／歴史がいっぱいあるんだなと思った／普段あまりじっくり浅草を見ないので初めてゆっくり見てとても楽しめました。知らないところがたくさんあつて、地元でもこんなに楽しめるとは思わなかった／浅草は今も昔も栄えていることがわかった／とても古い歴史に触れられた。浅草は昔のほうで栄えている。浅草寺の回りはまだ人が多かった／最初歩いていてつまらないと思っていたけど、歩いたら意外と楽しかった／普段は通り過ぎるところを細かく見れて楽しかった

6. わたしの考える歴博活用案

過程	時間	○学習活動 ● 学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
展開①	20分	<p>○各生徒にパズルを1枚選ばせる。</p> <p>【アイスブレイク・パズルワーク】</p> <p>●パズルの場面に描かれているものを理解する。</p> <p>○それぞれが持っているパズルのピースでつながる場面を持っている人を探し、グループをつくる。</p> <p>○グループ内で自己紹介をする。</p> <p>●パズルに描かれている場面を理解する。</p> <p>○パズルをつなげた画面に描かれていることを読み取って、話し合う。</p>	<p>□パズルは4～5枚ずつでひとつの場面ができるよう分けておく。</p> <p>□各教員もひとつピースを持ち、サブファシリテーターとしてグループに入る。グルーピングがスムーズに行くよう声かけをする。</p> <p>□自己紹介がスムーズに行くよう注意を払う。</p> <p>■パズルをよく観察し、描かれていることを読み取っている。＜技＞</p> <p>■読み取った内容をグループのメンバーと共有できている。＜関＞</p> <p>□個人の意見を引き出し、全体で共有できるようサポートする。</p>
展開②	30分	<p>○パズルの場面を屏風の中に位置づけ、屏風に何が描かれているのかを理解する。</p> <p>●床置きパネルを広げ、自分たちのパズルの場面をパネルの画面から探す。</p> <p>●屏風全体に描かれているものから、この資料がどんな資料かを考える。</p> <p>○「江戸図屏風」の概略について理解する。</p> <p>●もう一度屏風を観る。</p>	<p>■パズルの場面を屏風パネルから見つけることができる。＜関＞</p> <p>■屏風パネルから手がかりを探し、どのような資料か自分の意見を組み立てることができる。</p> <p>＜思・技＞</p> <p>□生徒との会話を通じて、手がかりを与える。</p> <p>■「江戸図屏風」がどのような資料か理解できる。＜知＞</p> <p>□上野・浅草に注目させ、どのようなものが描かれているかを観る。</p>

展開③	90分	<p>○浅草の歴史を理解する。</p> <p>●浅草高校→待乳山聖天→猿若町→浅草寺→浅草六区→浅草高校のルートでフィールドワークを行う。</p>	<p>■歩きながらの発見や教員の解説、画像資料から、浅草がどのような場所かを理解する。＜知＞</p> <p>□生徒と会話をしながら、さまざまな感想を引き出す。</p>
展開④	30分	<p>○学んだことをまとめて、説明する。</p> <p>●グループでワークを振り返り、A用紙に「浅草って○○なところ」とワンフレーズでまとめる</p> <p>●まとめた紙をみんなに見せつつ、どうしてそうなったのかを説明する。</p> <p>●個人の感想をワークシートにまとめる。</p>	<p>■グループでの感想を共有し、ひとつのフレーズにまとめることができる。＜思＞</p> <p>□個人の意見を引き出し、全体で共有できるようサポートする。</p> <p>■グループの意見を根拠に基づいて説明できる。＜思＞</p> <p>□補足説明を求めるなど、全員が理解できるようにサポートする。</p> <p>■今日学んだことを自分の言葉でまとめられている。＜技＞</p>

参考文献

『たいとう名所図会 史跡説明板ガイドブック 2004年』

『台東区歴史・文化テキスト』 台東区教育委員会 2010年

小澤弘・丸山伸彦編 『図説 江戸図屏風をよむ』 河出書房新社 1993年

水藤真・加藤貴編 『江戸図屏風を読む』 東京堂出版 2000年

『切り絵図・現代図で歩く もち歩き江戸東京散歩』 人文社 2006年